函館市医療・介護連携推進協議会 情報共有ツール作業部会 第6回会議

日時:平成29年10月26日(木)19:00~

場所:函館市医師会病院 5 階講堂

【次第】

- 1 開 会
- 2 議 事

○報告事項

- (1) 「基本ツール, 応用ツールの修正」について (資料1・資料2)
- (2) 試験運用の実施状況について (資料3)
- (3) ICT研修について

○協議事項

- (1) モニタリングについて (資料4)
- (2) 応用ツールごとの作成マニュアル等について (資料5)
- (3) 今後のスケジュールについて (資料6)
- 3 その他
 - ・次回の部会日程について
- 4 閉 会

【配付資料】

- 1 はこだて医療・介護連携サマリー(修正版)
- 2 はこだて医療・介護連携サマリー修正箇所
- 3 試験運用実施状況
- 4 モニタリング集計
- 5 応用ツール作成マニュアル
- 6 試験運用タイムスケジュール

函館市医療・介護連携推進協議会 情報共有ツール作業部会 第6回会議 出席者名簿

※★…部会長および副部会長 〇…幹事

(敬称略)

※★…部会	長および副部会長 〇…幹事		(敬称略)
分野	所属団体	氏 名	勤務先
	公益社団法人 函館市医師会	○佐藤 静	函館市医療・介護連携支援センター
	一般社団法人 函館歯科医師会	大内 英樹	大内歯科医院
	一般社団法人 函館薬剤師会	星野 志津代	(有)みすず調剤薬局
医療	公益社団法人 北海道看護協会 道南南支部	加藤 由美子 ※欠席	日本赤十字社 函館赤十字病院
	道南在宅ケア研究会	岡田 晋吾	医療法人社団 守一会 北美原クリニック
	函館地域医療連携実務者協議会	★部会長 亀谷 博志	社会福祉法人函館厚生院 函館中央病院 総合医療支援センター 地域医療連携課
	一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会 南支部	石井 義人	社会医療法人 高橋病院
	函館市居宅介護支援事業所連絡協議会	横山 文昭	指定居宅介護支援事業所 ハーモニー
介護	函館市地域包括支援センター連絡協議会	★副部会長 松野 陽	函館市地域包括支援センター たかおか
) I HX	函館市訪問リハビリテーション連絡協議会	吉荒 龍哉	介護老人保健施設 ケンゆのかわ
	道南訪問看護ステーション連絡協議会	保坂 明美	訪問看護ステーション フレンズ

はこ	だて	医療•介	護退	直携サ	マリー	<u>-【</u> 基本	<u>ツ</u> ール	<u>.</u>]										資料	% [1
情報:	提供先 设名称				•		御中	情報提 担当和								様		具作	1
●基	本情	報等				ı	1					ŢF	,for-	<u> </u>			<u> </u>	∤障(ψπ `
)カナ) : 名					生年 性別等		. □女	: (満			護	」無	障害等 認定		無 療育 特定 _级		r阵(f神(級)
現住所	听					1		<u> </u>	、八叫	Ja	p 4 /	電話	番号			᠋1寸化が	~ 163 (
居住		戸建(施設(階))	集合住宅	(階)※	(エレベータ	! 有	無	医療	保険種類		健康 その [・]	【 ₹保険 他 (国民健康	東保険	後	朗高齢者
要介記	雙度			認定有 効期間	平 ~ 平	·成 ·成	年年	月月	日障害		5日常生 きり度)	活自				認知症高 常生活自	います。 「齢者日 日立度	ı	
同居家	家族	無		配偶者	子		子の配偶者		兄弟姉	妹		の他(1)
連絡分	t ①				続柄		同原 別原							関係	H	主介護行	者] キーパー	ソン
連絡5	t2				続柄		同月	看 話						関係	Ħ	主介護る	当	キーパー	ソン
• 2	療情	报等 * ⁱ 主病		師等が扱	摂食や口	<u>腔ケアに介</u>		いる場合	は、応用		ル④を 療科 1		トさい	0	担当		4	是診状況等	*特記
		m	-					(Y		н	1111							P.10/0 AT	
													\perp						
						<u> </u>						*特記	<u>.</u> ☑の	付く場合	は応	用ツール	/18を作	成して下さ	<u> </u>
●身	▶体•生	活機能等	F				評	西日	平成		年	J	月	日	F	入院時 [地域生活	入院期	中退院]その他(時)
*起居				自立	見守	Fり 一 #	部介助	全介	助	看	多動				自介	प्रं ⇒	杖 その他	步行器	車いす)
麻痺の	の状況			無	軽度	ξ	中度	重度	Ę	A	麻痺の	部位		ŀ	左	上肢	右上肢 右下肢	その (·他)
視力	[日常生活	まに支障]		無	有≕) ()	-眼鏡	ģ		無] 有	· ·	,
聴力	[日常生活	「大障」		無	有≕) ()	•補耶	器		無	有		
意思の	の伝達			可	□ 時々	?可 [[まとんど不	可不	可	Ś	大語 症			1		無	有	□ 不明]
*認知	症症状		無		記憶障	書	幻覚·妄 暴言·暴	_		逆転 行為		介 徘		の抵抗	そ	抑 ⁻ の他 (うつ·不 !	安)
事	<u>*食形態</u>	Ĺ		普通	☐ 刻ā	み 🗌 嚥 🖰	下障害食	<=	サー	7.	k分トロ	18				無	有		
摂取	<u>*食動作</u>			自立	見守	『り □ 一番	部介助	□ 全介	助	1	き事・オ	〈分制	限			無	有		
口腔	<u>*口腔ケ</u>	<u>z</u>		自立	見守	『り □ 一番	部介助	□ 全介	助	į	集歯 使.	用				無	有	要アセ	スメント
排し	排尿介即	th		自立	□ 見守	Fり 🗌 一	部介助	□ 全介	助	F	トイレ	使用				無	夜間	常時	
泄	排便介即	th		自立	□ 見守	FU	部介助	□ 全介	助	7.	ナムツ位	使用					夜間	常時	
衣服(の着脱			自立	□ 見守	Fり 🗌 一	部介助	□ 全介	助	*	服薬管	理				自立 一部介助	b	見守り 全介助	
入浴(保清等)			自立	見守	Fり 🗌 一部	部介助	全介	 					T					
			=		_	-ル② 作成								テル		(応用ツー		成)	
			=	皮膚疾 認知症	_	5用ツール® ツール③ 作					H		導尿 ∙尿管	皮膚瘻		ソール⑪(に用り	作成) /一ル①	作成)	
			=			(応用ツ					Ē			(部位:			s)
			=		熯灌流装 供給装置	置 (応用	ヨツール⑤	作成)			片		呼吸器 カニュ			用ツール①			
*特別	な医療等	差		酸素療法		L 5用ツール⑥	作成)				H					(応用)			
			=	吸引器								感染	_			ル16 作成			
Ø	 の付く項目	は右記	=	輸液ポン	ンプ 派栄養	(応用ツ・	— ル <i>⁄</i> ラ <i>ル</i> =	Fţ.)			님			ーション 高管 理		(リハビ (応用ツー		ョンサマリー 成)	作成)
ව	応用ツール さい。		=			(心用ツ· ンスリン)			成)		님	活木				(心用ツー: ル1® 作月		HX.)	
L		ــــــــــــــــــــــــــــــــــــــ	=	経管栄		5用ツール⑨								. =					
在宅分	介護サー	ピス等		訪問診療 通所サー			間歯科診療 一トステイ		訪問看住宅改			訪問福祉				問入浴 の他(訪問リハ)
*介護	上. 特に	注意すべき	等点:								りに関っ	する本	人·萝	族の意	向等	<u> </u>			
		立・見守り」	以外は	応用ツー		、認知症症		外は応用				زا، درا:		合応用ツ					-
_		・ロ腔ケアの の記入者			<u>・ 目 </u>	パルで選択し	いに場合は	ルル用ツー	-ル <u>4</u>)を	、加绵	官埋	ᆸᄯᆡ	以外に	・心用ツ	ール	心を作成	. L⊊()°)	
電話		- HOT \ A			FAX				記入	、者						作成日			
					<u> </u>					L									

情報提供先 情報提供先 施設名称 御中 担当者名 様 氏 名 週間スケジュール 月 火 水 日 木 金 土 AM РМ 医 備考 療 介護 サービス内容 サービス提供事業者・担当者 主なサービス内容等 サー ①訪問診療 ビス利用 ②訪問歯科診療 ③訪問看護 ④訪問介護 尺状況 ⑤訪問入浴 ⑥訪問リハ ⑦通所リハビリ ⑧通所介護 ⑨ショートステイ ⑩住宅改修 ⑪福祉用具 12他() ①3他() 生育歴 生 活 続柄 関係 連絡先 氏 名 □=男性 ○=女性 ◎=本人 KP=キーパーソン (住所) (備考・携帯番号等) 就労状態 健康状態 家族構成図 絡 (住所) 先 (備考・携帯番号等) 就労状態 健康状態 (住所) (備考・携帯番号等) 就労状態 健康状態 所属名 本サマリーの記入者 電話 FAX 記入者 作成日

はこだて医療・介護連携サマリー【基本ツール②】 在宅⇒病院用

	応用ツー	ル② 褥瘡管理	
1. 氏	名	生年月日	 -
2. 治療	医療機関	• 担当医	
3. 自己	管理能力(該当するものに☑) □ 1)自己管理可 □ 2)一部介助 □ 3)全面介助 (介助者 * 家族等の介助状況→ □ 可能 * 特記事項() 上)
	① ·位置()	
•]		Necrotic tissue (壊死組織) → (Pocket (ポケット) → ())
· _ 淮	(毒薬・ドレッシング材の種類・数		
· 使	~ 上記薬剤および材料の要継続期間([用器具・提供数(*バック療法がある場合		
• 複	〜 上記使用器具の要継続期間(推定) 瘡処置回数 →		
	② ・位置()	
•]	SIGN-R [®] 褥瘡経過評価 Depth(深さ) →() Exudate(滲出液)→() Size(大きさ) →() Inflammation/Infection(炎症/感染) L在の使用薬剤および投与量	Necrotic tissue (壊死組織) \rightarrow (Pocket (ポケット) \rightarrow ())
・消	i毒薬・ドレッシング材の種類・数		
. 相	~ 上記薬剤および材料の要継続期間(三用器具・提供数(*バック療法がある場合		<u>,</u>
	. 川伯会・近岸数(ヤベノノ原仏M-8)の勿日	1 中山 年久 /	
• 被	〜 上記使用器具の要継続期間(推定) 瘡処置回数 →		
5. その	他(褥瘡の状態変更時の対応方法等)	
	作成者 所属	記入者	
ツール	·管理者 所属	氏名	

応用ツール③ 認知症管理

1.氏 名	生年月日	
2. 認知症の原因疾患 (該当するものに☑)		
□ ① アルツハイマー型認知症		
□ ② 脳血管性認知症		
□ ③ レビー小体型認知症		
□ ④ 前頭側頭型認知症		
3. 認知症の症状(該当するものに☑と下部欄		
□ ・記憶障害	□・幻覚、妄想	
・昼夜逆転	□・介護への抵抗	
□・抑うつ、不安	・暴言、暴力	
・不潔行為	□ ・徘徊	
でその他		
4. 認知症の治療状況		
· 治療医療機関⇒ ()
· 担 当 医 ⇒ ()
・ 内服薬の状況⇒ □ 有 □ 無		
→ □ 薬情報添付		
5. その他		
作成者 所属	記入者	

応用ツール⑤	自己腹膜灌流管理	
氏 名	生年月日	
治療医療機関	• 担当医	
開始日		
自己管理能力(該当するものに☑) □ 1)自己管理可 □ 2)一部介助 □ 3)全面介助 (介助者 * 家族等の介助状況⇒ □ 可能 * 特記事項(透析療法と使用器具等)
方法: 🗌 CAPD (持続携 行	f式腹膜透析) □ A P D(自動腹膜透析)
接続方法: □ スタンダード	□ UVフラッシュ] つなぐ
CAPD (持続携行式腹膜透析) 回数 時間	透析液	量
<u> 日</u> 数	155711位	 里 m1
2		m1
3		ml
4		<u>m1</u>
Yセットで排液		m1
APD (自動腹膜透析)		
を用いて ・総注液量(ml) ・時 間(~ ・最終注液 □ 有 □無 消毒薬・衛生材料 ・ スワブスティック (本) ・絆 創 膏 () ・手指消毒剤 () ・ 手指消毒剤 () カテーテル感染の既往 (いずれかに ☑) □ あり □ なし 緊急時の対応方法(排液の混濁、カテー	・ 日中バック交換 ・ 日中バック交換 ・ ドレッシング剤 ())
その他		
作成者 所属	記入者	

はこだて医療・介護連携サマリー修正箇所について

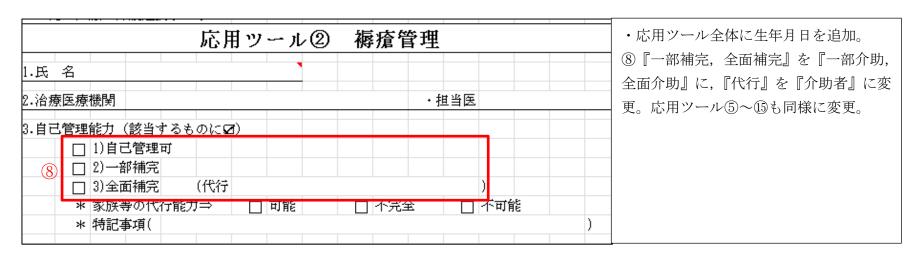
【基本ツール①】

7-1 - 1 - F		T====== 1				
しまこ/こ(E 情報提供先	<u>医療・介護連携サマリー</u> │	<u>【基本ツール】</u> 「 _{佐報}	提供先			□『アパート、マンション』を分けずに
施設名称			当者名	穫		
● 基本情報	最等					集合住宅に修正。エレベーターのチェッ
氏名		生年・ 性別等	生性活性	無	微)	ク項目を上部に移動し、施設の()の
現住所		1277 □男 □	」女 (満 焼) ̄ ̄ ̄ ̄			スペースを大きく変更。
居住	 □ 戸建(NB) □ アパート(□ 施設(階) □ マンション() ※エレベータ □ 7		──│ 健康保険 □── 国民健康保険 □── 後 その他 (数期高齢者	②『事業対象者』を追加,『適応外』の表
			日 障害高齢者 8 常生活自	さいで (認知症高齢者日		現を『非該当』に変更。
要介護度	効期間 ~平	成 年 月	□ 立度(寝たき9度)	常生活自立度		③『主介護者,キーパーソン』の表現を
同居家族	無 配偶者 子	□ 子の配偶者 [□ 兄弟姉妹 □ その他()	 『連絡先①②』に変更。後方の『就労状
主介護者	統柄	同居日	236	就芳 状況 、		別の 況,健康状態,緊急連絡先』を『関係』
キーパーソン	統柄	同居日	REA	緊急 連絡先		
● 医療情報	優等 ★歯科医師等が摂食や口腔	『ケアに介入されている場合	は、応用ツール@を作成下さい。			に変更。
	主病名	医疫機関等名称	診療科名等	担当医 受診状況	等 <u>*糖記</u>	④起居動作のチェック項目を簡素化。『自
						立、見守り』以外にチェックがつく場合
				記☑の付く場合は応用ツール®を作成して下		は応用ツール®に記入する形に変更。
● 身休・生	: 法機能等	評価日	平成 年 月	日 入院時 入院中 退 地域生活期 日 その他(院時	⑤自立と介助を分け、その後ろに手段を
起居動作	□ 起き上がれる [□ 介助が必要 [立ち上がれる 18 介助が必要	またきり 5 移動	□自立 □杖無し □歩	:行器 !いす	チェック。
麻痺の状況	□無 □軽度	中度 目	康痺の部位		の他)	⑥視力・聴力のチェック項目を簡素化。
視力	新聞等の字が見える ■ ほとんど見えない	う □ 目の前の物が □ 判断不能	5見える 眼鏡	無日有		フリー記入スペースを追加。
聴力	□ 日常生活に支障なし	. 大声ならなん	とか聞える 補聴器	無 有		

【基本ツール②】

			ロ=男性 O=女性 ®=本人 KP=キーパーソン		氏名	拿 克≠丙	連絡先	⑦『関係』『就労状態』『健康状態』を追
			NI 1 71 22		1 (住所)	·		加。
家				緊	(備考・携帯番号等)			
族構			7	急連				
成				絡	2 (住所)			
X				先	(備考・携帯番号等)			
					3 (住所)			
					(備考・携帯番号等)			
本サマ	ツーの記入者	所属名						
電話		FAX		ii:	入者 函館次郎	作成日		

【応用ツール②褥瘡管理】



【応用ツール③ 認知症管理】

4.認知症の治療状況			⑨『□ 薬情報添付』のチェックを追加。
・ 治療医療機関⇒ ()	Self-training and a self-training
・担 当 医 ⇒ ()	
・ 内服薬の状況⇒ □ 有	□無		
9 有の場合処方内容⇒			

【応用ツール⑤ 自己腹膜還流管理】

	5.使				・回数														⑩ 『5. 使用薬剤・投与量・回数,6. 使用
			透析	液()	・液動	建 (m1)	器具・提供数』を合体及び一部削除し, 『透
							・貯留	時間	(皏	間)		・交換	奥回数	(团)	析療法と使用器具等』に変更。
			透析	液()	・液動	建 (m1)	_ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
							・貯留	時間	(皏	間)		・交換	奥回数	(団)	⑪内容を整理し変更。
10	Q (估)	田架目	1 . <u>f</u>	と 提供数															
	U・I欠/				რა. → =	± 1.		-			+	+							_
		ш			奥シスラ	T 44				190	464								
				(× ~	力一:					種	類:								
											セ	ット	:)	
ı			その	他 ()				
	7.消	声薬・	衛生	材料															
		消		夜 (m	1)	•	綿		棒	(本)		
11)	•	滅菌:	ガー	・ゼ (枚×	n	°ック)	•	絆	創	育	(個)		
		Y字h	ነትክ"	-b" (1	枚×),	°ック)											
		~ (න <u>1</u>	他 ()	

試験運用の状況(H29.4月~H29.9月)

ア はこだて医療・介護連携サマリー試験運用協力機関一覧および試験運用実績

区分	種別	機関名	試験運用実績(件)
	病院	函館五稜郭病院	11
		函館中央病院	22
病		函館市医師会病院	114
院		国立病院機構函館病院	3
		おおむら整形外科病院	3
		西堀病院	2
	居宅介護支援事業所	ハーモニー	2
		あさひ	18
		函館脳神経外科	6
		百楽園	3
在		シンフォニー	9
宅系		はくあい園	12
がサ		あんじゅう	18
ĺí		白ゆり	22
Ľ		すみれ	10
ス		西堀	21
		あんしん松風	2
	地域包括支援センター	たかおか	4
		ときとう	4
		神山	1
	短期入所療養介護	ケンゆのかわ	0
施	短期入所生活介護	ショートステイ白ゆり美原	0
設	特別養護老人ホーム	桔梗みのりの里	16
系		シンフォニー	0
サ	介護付き有料老人ホーム	こん	1
	サービス付き高齢者向け住宅		0
ビス		亀田日和	3
^		ジャパンケアサービス	1
		ハートTOハート北浜	0

総実績数 308件

イ 運用形態別の試験運用実績

(病院から提供)

・病院→在宅 72件・病院→施設 49件

• 病院→病院 34件 計 155件

(在宅系サービスから提供)

在宅→病院 111件

・在宅→施設 12件

在宅→在宅 9件 計 132件

(施設系サービスから提供)

施設→病院 21件

· 施設→在宅 0件

計 21件 施設→施設 0件

総実績数 308件

情報共有ツール部会 はこだて医療・介護連携サマリー モニタリング アンケート集計結果 (受け取り側) H29.7~9 分 (n=62)

1. 区分

① 病院 <u>42 件</u>

② 診療所 <u>1件</u>

④ 介護サービス事業所<u>19 件</u>

居宅系サービス(居宅9件,包括4件)

施設系サービス (ショートステイ 2 件, グループホーム 1 件, 老人保健施設 2 件, 介護付き有料老人ホーム 1 件)

2. 受け取ったサマリーの種類

① 基本ツール62件

② 応用ツール 52 枚/38 件

①付帯情報管理 (6枚)

②褥瘡管理 (4枚)

③認知症管理 (9枚)

④食事摂取困難管理 (9枚)

⑥酸素療法管理 (2枚)

⑧糖尿病治療管理 (3枚)

⑨経管栄養法管理 (1枚)

⑩膀胱留置カテーテル管理 (1枚)

(17枚)

※未回答 2 件

3. サマリーの受取方法

① 手渡し 38件

② FAX 21 件

③ 郵送 3件

④ その他 0件

4. 内容に関して

I 情報の記載順序について

見やすい
 46件

② 見づらい 16件

(具体的に)

- ・P1~6 までは、はこだて医・介サマリー、P7~9 は CM 在宅プラン etc の順序で見やすい。
- ・通院先や現状がわかりやすい。

- ・認知症症状の記載順序が途中に入っているため。
- ・字が細かい。
- ・シンプルに整理できればいい。
- ・順序は良いが1枚の用紙に基本情報が集約しすぎているとの意見が出ていました。
- ・項目が細かい。
- ・内容的に分かりやすいが見づらい。
- ・表記や字全体が小さく読みづらいと感じました。もう少し枚数が増えてもいいので文字を 大きくしてほしいです。
- 見慣れていないから。
- スペースや字が細かいです。
- 習慣になってないから。
- ・レ点ではなく塗りつぶした方が見やすい。

Ⅱ 情報の内容について

③ 多い
 ⑤ 足りない
 ③ ちょうどよい
 53件
 ※未回答

(具体的に)

- ・サマリーの他に在宅プラン etc 追加情報あり。
- ・保清が無い。もう少しシンプルにして見やすい方がいい。
- ・字が細かくて、情報量が見えにくい。
- ・認知症の情報がもっとほしかった。

Ⅲ 情報の正確さについて

正確
 ほぼ正確
 ほぼ正確
 一部誤りあり
 不正確
 1件
 ※未回答
 30件
 26件
 3 十

(具体的に)

- ・身体、生活機能等は入院時変化しているため、しかたないと思う。
- ・ポート挿入しているが記載なし。医療情報が不足。
- ・主介護者,キーパーソン,同居家族と2枚目基本ツール②いろいろ重複。基本ツール②の 週間スケジュールはケアプランがあればいい。
- ・これから訪問予定。
- ・必要な情報がある程度書かれていた。
- ・転倒既往があり、抑制具を使用していたようだが情報が無い。
- ・介護保険情報に一部誤りあり。

- ・家族からの情報と間違いがあまりなかった。
- ・以前に入院していた方なので、緊急連絡先の情報は正しいです。介護サービス利用状況については、正確かどうかわかりません。

IV その他

- ・入院して早急な対応であり、情報源が少ない中、本人像が明確に分かり、看護 etc 現場の 対応時の参考になる。
- ・見慣れれば問題ないかもしれないが、細かくて見にくい。チェックボックス♥ではなく、 塗りつぶしの方が目を引いてわかりやすいかもだが、インクの減りが早くなる(でも塗り つぶしの方が見やすい)。
- ・基本ツールを1 枚にまとめたことで、細かくなり FAX だと字がつぶれがちになり読みにくくなる。
- ・一番気になる事など、記入してもらえる欄があれば良い。
- ・紙の量が少ないと管理しやすいです。
- ・情報内容としては問題ないですが、字が小さくて見づらいです。
- ・基本ツール②スケジュールがカレンダーに書かれていないので中途半端である。
- 助かりました。
- ・特に応用ツールのこれまでの経過と今後の予定に関する情報はありがたかったです。
- ・入院時に情報提供あり、状況把握と担当者の確認ができ、連携に役立つと思います。
- ・退院前の情報等の確認が得られたこと,退院時のサマリー他はサービス提供事業所との支援調整に役立ちました。今後もよろしくお願いいたします。

情報共有ツール部会 はこだて医療・介護連携サマリー モニタリング

○ ヒアリング集計結果 (作成側) H29.7~9分 (n=20)

1) 記入項目について

(情報の記載順序について)

- ① 書きやすい 13件
- ② 書きづらい 7件

※具体的な意見

- ・必要な情報が集約されているので、情報を収集するための確認作業も楽であった。
- ・文字が小さくて見づらかったです。
- ・チェックで済むので記入が楽だが、全体的に文字が小さいため見えづらい。
- ・☑形式になっているため記入しやすかった。
- ・基本ツールの選択式の記入はしやすいが、応用ツールを埋めるのは慣れるまで時間を要する。
- ・記載順序は利用者様の全体像が分かりやすいと思います。
- ・書式に慣れた。
- ・ツールに沿って記入していくと忘れずに情報を渡すことが出来るため。
- 入力しやすかった。
- ・チェック項目に知らせたい項目がなく結局、その他や特記に長い文章となってしまう。
- 医療側(医療情報)→福祉側への情報提供はとても助かります。
- ・順序的には、チェックがあると次のツールへ内容を記載していけることもあり書きやすく思 う。
- ・患者のイメージがつきにくい。

(情報の内容について)

多い
 2件
 足りない
 7件

③ ちょうどいい 11件

※具体的な意見

- ・身体状況等について、詳細を記載したい。
- ・これ以上多くなると、作成側、受け手側ともにストレスを感じるように思われる。
- ・時間のないときに書くには時間が少しかかりました。
- ・病歴(既往歴)を記載する欄が少々足りない気がします。発症時期や入院歴を記載する欄も あれば良いかなと。
- ・医療情報の欄が足りない。
- ・介護情報、個々の介助法等について詳細を記入できると良い。
- ・初めは多いと感じたが数回書くうちに慣れたように思う。
- ・ちょうど情報量が少ない方だったので、記入項目はあまりなかったがちょうどよいと思う。
- ・介護面での情報が少ないのでは。

- ・医療面は十分かと思います。
- ・内容が細かいため、詳しい情報を得られるが、非常に詳細のため、作成するのに時間がかか る。
- ・記載事項が多岐にわたるため急な入院などに対応しづらく、結局未提出になってしまう。
- ・入院経過や今後在宅でお願いしたいことなど伝えたい内容が記入しづらい。
- 2) 提出先からの問い合わせの有無・その内容について記載して下さい
 - ① あり

1件

② なし

19 件

※具体的な内容

- ・渡しても『???』という対応をされることがほとんど。
- ・医療機関からの退院時もいただくことがなく、認識度は小さい印象。
- 3) 多職種との協働記載の有無・その内容について記載して下さい
 - あり

7件

② なし

13 件

※具体的な内容

- ・必要に応じて、地域医療連携室所属の看護師と作成。
- ・応用の一部をNsサイドで記入。
- ・尿カテーテルについて。
- ・デイに歩行状態等を確認。
- 基本ツール協働:相談員、Ns,応用ツール:Ns。
- 食事形態,排便状況。
- 医療処置の詳細は看護師が記入。
- ・医療分野は看護師が記載、また、普段の状態は介護職員・栄養士へ聞き取りしながらの記載。
- ・応用ツール⑥⑨⑬⑭を外来Nsと協働記載(使用機器,投与方法,消毒薬,衛生材料等)。
- 4) その他,ご意見やご要望などあれば記載して下さい
 - ・元々、院内で使用している書式があるため、あまり使用していないのが現状である。
 - ・ツール作成は基本的にMSWでの対応としているが現状のマンパワーでは作成件数に限界を 感じている。
 - ・「はこだて医療・介護連携サマリー」を提出しても退院時の連絡,情報がなかったので残念に 感じました。
 - ・こちらが作成する側の時にはそれほど気にならなかったのですが、9月に初めて情報をいた だく側となった時に、文字やチェック欄が小さく見えづらく感じました。慣れが必要でしょ うか。
 - ・ケアマネと主治医とのやり取りを簡潔に行える仕組み (用紙のやり取り等) を作って欲しい。

例:介護保険の医療的サービス(訪看,デイケア等)利用の主治医からの意見等。

- ・内容が2枚に集約されていいのだが字が細かくて見にくい。
- 見る側は細かすぎてパッと見難い。
- ・日常業務にも活用できる書式だと業務の効率化にも活かせるが、都度、連携のためだけに新 たに作成するのは、時間を要し難儀感も大きい。
- ・入院先に持参した後、転院されたケースで転院先に確認したところサマリーの希望があり持 参しました。同じ内容のサマリーとなる為はじめに入院した病院へ持参したものを提供して いただく事が出来るでしょうか。
- ・病院提出後、転院になった際のサマリーについて病院によって対応の違いがあると思います。 確認すると転院先では前病院から情報をいただいているので①わからないことがあったら連 絡しますと言って下さる場合と②最初からいただければとの2通りあります。①がありがた いです。
- ・食事について療養食の内容を記入するところがあると良い(例:心臓食,塩分5g以下など)。
- ・入浴について一般か機械入浴かを記入するところがあると良い(チェックでも良い)。
- ・今回は経管栄養の方のペグ交換のための入院で定期的に入院されている方だったが緊急時に は多くの情報があった方が良いと思います。
- ・施設側としては、情報共有できる看護サマリーは必要だと思います。
- ・何枚もの量になるとすべて書いたり読んだりするのに時間がとても必要。
- ・チェック項目の横にバルンなら何Fr,カフ何ccなど書き込めた方が一目でわかる気がします。
- ・作成に時間を費やしてしまうので、ケマネジャーが作成する既存の書類でカバーできる部分 はそれで良いのではと思います。(作る際に他のケママネと話してました)
- ・連携サマリーの書式は見やすく、レ点でチェックする箇所がほとんどで、記入も負担なくできると感じています。応用ツールも枚数は多いですが、すべての状態を網羅するにはこのくらいの枚数にはなってしまうのは仕方ないと思います。市内すべての医療機関、介護施設等がこの用紙に統一することが決まれば、連携がスムーズにいき、情報共有がきちんとできると思うので、早く統一の指示が出ればよいと考えます。
- ・重複しての記載内容があった (緊急連絡先など)。
- ・記載内容が多いため、入院する際は実際にすぐにはすべて記載する時間がなく後からの提出になってしまう。
- ・在宅と違い、施設の入所者は短い期間での変更が多く都度の情報を変更しなければならない
- ・ケアマネジャーがいる場合の対応の提出の優先準備が必要かと感じた。(加算と兼ね合い、情報重複の可能性など)
- ・医療情報ですが、既往が多い方だと、記入しきれない事もあり、記入の際、記入の仕方に迷うことがありました。

リンク(1)

●函館市 認知症の方とその家族のためのサービス

【内容】

- · 函館市成年後見制度利用支援事業
- ・知ってあんしん認知症 (函館市認知症ケアパス)
- ・認知症ガイド
- だれでも認知症カフェ
- 介護マーク

リンク②

●函館地区高齢者のためのSOSネットワーク

【内容】

警察・保健所・市町等で行方不明の高齢者を早期に発見、保護するネットワーク

リンク③

●函館市 認知症疾患医療センター

【内容】

- ・亀田北病院 認知症疾患医療センター
- ・富田病院 認知症総合医療センター
- ・函館渡辺病院 認知症疾患医療センター

リンク(4)

●認知症ねっと

【内容】

認知症に関するトピックス等を幅広く掲載する民間サイトです。

1. 氏 名 生年月日

・対象患者様の氏名,生年月日 ※基本情報からリンクされます。

2. 認知症の原因疾患

・ 医師の診断に基づいてチェックして下さい。

※各原因疾患の詳細については「知ってあんしん認知症」(函館市認知症ケアパス)参照。 http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2017042800077/files/keapasu-all.pdf

3. 認知症の症状

- ・ 対象患者様の該当する8項目の認知症の症状にチェックをし、下段に具体的な行動、言動、エピソード等を記載して下さい。
- ・ 8項目以外に気になる認知症が原因と思われる症状については「その他」へ記載下さい。

4. 認知症の治療状況

- ・ ツール作成時に治療中の医療機関名、担当医を記載下さい。
- ・内服薬がある場合は、必ず内容を記載するか情報を添付して下さい。

5. その他

・ その他、入院、介護上の状況や伝達事項を記載して下さい。

作成者

・本「応用ツール③ 認知症管理」を記載作成した連携担当者。

ツール管理者

・ 対象患者の「基本ツール」を作成、管理、情報収集した連携担当者。

応用ツール③	認知症管理	【記載例】
1. 氏 名 函館 太郎	生年月日 昭和	115年1月1日
2. 認知症の原因疾患(該当するものに☑)		
☑ ① アルツハイマー型認知症		
□② 脳血管性認知症		
□③ レビー小体型認知症		
□ ④ 前頭側頭型認知症	. = 7 (= = = + 1)	
 認知症の症状(該当するものに☑と下部欄内 記憶障害 	引に 詳細記載) ☑ ・幻覚、妄想	
・家族の顔は分かるが、他は不明です。 ・場所も自宅以外は不明です。	時折、家の中に「見居ると言う時があり	かけた事の無い人」がます。
・昼夜逆転	□・介護への抵抗	
夕方の17時には就寝してしまい、夜中に起床し日中に3時間程度昼寝します。	おむつ交換時に抵抗	があります。
✓ ・抑うつ、不安	☑・暴言、暴力	
時々、何かの不安感を訴え突然涙を流す事があります。	表に出し「うるせえ	くなり、イライラ感を !」等の大声を出した 手を出す事がありま
✓・不潔行為	「・ 徘徊	
排泄時に、便を壁につけたりする事があり ます。	時間問わず、家の周 毎日徘徊するが、ル となり捜索願いを出	囲の決まったルートを ートを逸脱し行方不明 した事もあります。
✓ ・その他 デイサービス利用時は、施設職員に対して介護 家族に対して(特に主介護者)は非常に厳しい対 いては十分注意を要します。		
4. 認知症の治療状況		
 治療医療機関⇒ (<u>函館○○病院</u>)
・担当医 → (・内服薬の状況→ ☑ 有 □ 無)
	らの処方内容を添付していま	† .
- 2.01h		
5. その他 3年前から徐々に認知症状が出現しています。2年前に ています、内服如ちされていますが、定性は徐々に進		ハイマーの診断を受け
ています。内服処方されていますが、症状は徐々に進	51」している仏仏が刊んより。	
作成者 所属 函館〇〇病院 西病棟	記入者	函館花子
ル管理者 所属 函館○○病院 相談室	氏夕 [函館四郎

情報共有ツール『はこだて医療・介護連携サマリー』

今後の試験運用の展開方法及び正式運用、スケジュール等について

1 情報共有ツールの本格運用までの具体的なスケジュール

(1)11/1~新書式での試験運用を開始

- ・現在の試験運用協力機関には情報ツール作業部会終了後から新書式の説明を行い 11/1 から新書式の試験運用をスタート。
- ・11/7 の函館市医療・介護連携推進協議会終了後, 5団体(イカリング, 居宅連協, 包括連協, 訪看連協, 老施協)を通して試験運用の協力機関拡大を募り, 試験運用に参加してもらう。

(2)新書式試験運用アセスメント

- ・協力機関ヒアリング等は2月頭に実施。
- ・2月の部会,推進協議会を経た後,説明会を開催。

(3)正式運用に向けた説明会(テレシアター)

・2~3月の間に説明会実施。具体的な方法は今後調整。

(4)正式運用開始

・説明会終了後の3月に開始。

2 運用のタイムスケジュール

2017	
2月	 ・コアメンバー会議 ・各関係団体との協議の上で「応用ツール」の完成 ・試験運用施設の選定 ・「はこだて入退院支援連携ガイド」との連携協議 ・試験運用アセスメントについてのセンターとの協議
3 月	●情報共有ツール作業部会の開催 ・上旬 全ツール様式,活用マニュアル完成の上で4月から試験運用施設へ説明+依頼 ・「情報共有ツール作業部会」において,各関係団体へ事前周知
4月	■【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』 試験運用の実施 ・試験実施機関を拡大可能施設等への説明+依頼
5月	●函館市医療・介護連携推進協議会・試験実施機関を拡大し在宅・施設含めた全場面での試験実施
7月	●情報共有ツール作業部会の開催 (第1回 試験運用アセスメントの実施)
10月	●情報共有ツール作業部会の開催 (第2回 試験運用アセスメントの実施) ●『はこだて医療・介護連携サマリー (修正後)』の承認
11月	●『はこだて医療・介護連携サマリー(修正後)』試験運用の実施 ・試験実施機関を拡大しつつ試験運用を継続
2月	●情報共有ツール作業部会の開催 (第3回 試験運用アセスメントの実施) ●函館市医療・介護連携推進協議会において正式運用の承認
3月	■【情報共有ツール】『はこだて医療・介護連携サマリー』 正式運用の開始

【新書式に変更】⇒ 11月 | 12月~ | 1月~ | 4月 6月 8月 9月 10月 2月~ 3月~ 試験運用機関 函館五稜郭病院 函館中央病院 函館市医師会病院 試験運用機関 おおむら病院 西堀病院 試験運用機関 居宅ハーモニー 居宅あさひ 居宅百楽園 居宅シンフォニー 居宅はくあい園 居宅あんじゅう 居宅白ゆり 情報共有 ツール作業 部会にて アセスメント 実施 情報共有 ツール作業 部会にて アセスメント 実施 居宅すみれ 居宅西堀 居宅あんしん松風 試験運用機関 包括たかおか 包括ときとう 包括神山 試験運用機関 ショート白ゆり美原 桔梗みのりの里 情報共有 シンフォニー ツール作業部会にてアセスメント実施 正式運用 開始 有料こん 試験運用機関 サ高住(株)ハーモニー系列 サ高住亀田日和 ジャパンケアサービス サ高住ハートTOハート北浜 試験運用機関 〇〇病院 〇〇病院 試験運用機関 居宅〇〇 居宅〇〇 居宅〇〇 試験運用機関 包括〇〇 包括〇〇 包括〇〇 試験運用機関 訪看〇〇 訪看〇〇 訪看〇〇 試験運用機関 施設〇〇 施設〇〇